資料1-1

次期基本計画論点整理シート①（第4回世田谷区基本計画審議会資料）

基本計画大綱に盛り込む内容	キーワード・必要な視点	区の考え方との関連	委員から出された意見
計画策定にあたって （基本的な考え方・コンセプト）	●最上位の計画でしか描けない内容	H	◆縦割りの寄せ集めの計画とするのではなく、SDGsなどの複眼的な目標を掲げるなど、最上位の計画ならではの内容とすべき。【小林委員】
			◆個別や分野別では議論できない内容を議論していく必要がある。【森田委員】
			◆全てを包摂するような考え方や、区政への参加の考え方を打ち出せたらよい。【羽毛田委員】
			◆基本計画の付加価値は何なのかということを議論する必要がある。【小林委員】
	●社会状況の変化を踏まえた計画		◆安全安心や子どもの未来など、重要課題への区の理念をしっかりと基本計画に掲げることで、急激な社会状況の変化に対応することが可能ではないか。【尾中委員】
			◆何も教えなくてもデジタルツールをすぐに使いこなせる現在の子どもたちが、10年後、20年後に世田谷でメインで活躍していく社会を見据えた計画としたい。【羽毛田委員】
	●インクルーシブな視点・幅広い視点		◆日本全体、あるいは生態系までも含めた広い視点から、誰もが一層住みやすくするための政策をインクルーシブに考えていく必要がある。【小林委員】
			◆世田谷の外の世界にどう関わるのかという視点がない。他自治体や国際社会、あるいは、物を言わない動物だったり、生き物ではない生態系、そういう人なり物にどう関わるのかという視点が全くない。【小林委員】
	●計画上にない事態が生じた際にも役立つ指針		◆計画していないことが起きた際に役立つ指針となるような内容を考えた方がよい。【小林委員】
			◆同じような人が同じようなことを考えていたら、急激に環境が変わったときに対応できないため、多様性を尊重することが重要である。【羽毛田委員】
	●区民の生命を守る	1-1 3-4	◆命をしっかりと守るというのが行政の一番大事な立ち位置であり、災害時を含め、区民の命をどう守っていくかという視点が重要である。【鈴木委員】
			◆日本全体で、首都圏の直下型地震と南海トラフの可能性が30年以内に70%の確率だと言われており、自治体としてはある程度の対応を考えておかなければいけない。【青柳委員】
	●バックキャスティングの考え方	F	◆コロナ禍で社会変容が起きており、急速な変化に対応するには、これまでのフォアキャストの計画論ではなく、バックキャストの考え方が重要である。【涌井委員】
	●評価指標の設定の工夫		◆区の行政評価における評価指標は、行政側・サービス提供者側の指標が多く、住民にどれだけ成果があったのかという視点が欠けている気がする。また、評価指標が多すぎて、本来の目標が希薄化しているのではないか。【中村委員】
			◆目標達成に向けたそれぞれの施策をもう少し構造化し、一番上位のものを目標指標とするなど、指標の設定を工夫すべき。また、目標がわかりにくいので、8020のように、明確な目標を各分野でつくった方がよい。【中村委員】
			◆区の行政評価における成果指標の見方や達成状況の読み方がわかりにくいため、区民にわかりやすい指標の設定をすべき。【江原委員】
			◆計画、評価ともに縦割りである。関連施策とどのように相乗効果を挙げているのか、例えばレーダーチャートのような形で、相互に関連する政策の不十分な部分や充足されている部分を可視化し、評価する必要がある。【涌井委員】
			◆LWC指標をどのような形で基本計画等々に活用するのか、しっかりと議論しなければいけない。世田谷版のLWCみたいな形で何かつくっていくということならば、非常に面白いのではないか。【長山委員】
	●分野や領域を超えた施策の相互関連性の視点	H	◆今後10年を見据え、可能性をもう少し大きく広げて、今の領域に必ずしも捉われずに領域を広げ、考え方を広げていくべき。【安藤委員】
			◆医療・福祉の仕事は、事業所側の視点が欠けがちだが、区内には多くの医療・福祉の事業所が存在し、そこで働く人がいる。また、区民の介護保険料などが産業に回っているといった視点も必要。さらに、介護分野は外国人労働者の方に依存しなければならない実態になってきており、外国人関連施策も必要な視点となる。【中村委員】
			◆計画、評価ともに縦割りである。関連施策とどのように相乗効果を挙げているのか、例えばレーダーチャートのような形で、相互に関連する政策の不十分な部分や充足されている部分を可視化し、評価する必要がある。【涌井委員（再掲）】
			◆SDGsの誰一人取り残さないという視点を分野横断的に徹底する必要がある。【小林委員】
	●EBPMの推進	G	◆国は今後データ活用を本格化してくると思われ、根拠に基づく医療、介護というものがこれから求められるので、そういう視点で計画づくりを進める必要がある。【中村委員】

基本計画大綱に盛り込む内容	キーワード・必要な視点	区の考え方との関連	委員から出された意見
	●空間情報の把握・重層的な視点	3-0 3-1	◆どこの地区にどういう課題があるのかという空間情報が全く見えない。世田谷を均質化して考える発想でしかなく、同じ世田谷でも、地区といったクラスターの中の特性があり、クラスターごとの課題がある。もっと重層的な構造で、基本計画の問題点を浮き彫りにする必要がある。【涌井委員】
			◆それぞれの地区の社会的または自然的な特性をきちんと踏まえた上で、地区独自のコミュニティをどう醸成していくのかということを盛り込むべき。【涌井委員】
			◆地域の特性を踏まえ、地域計画から積み上げていくというような計画策定プロセスの考え方も必要である。【長山委員】
	●子どもを中心に据えた組立て	4-1	◆子どもが生まれ育つ上で、よい地域にする、子どもを中心に据えた組立てにできないか。【中村委員】
	●子ども・若者の意見の反映	I 4-1	◆計画に、若者たちの意見をしっかりと反映させることが重要。中・高校生、大学生ぐらいの、ちょうど次の世田谷を担う人たちとの継続的な意見交換の場、あるいは支援の場がないので、しっかりサポートするようなことが今すごく重要なのではないか。【森田委員】
			◆とりわけ中・高校生たちは、10年後に中核になっていく人たちなので、この人たちにきちんと世田谷のこれからを一緒に考えてもらうことはすごく大事である。【森田委員】
			◆ど真ん中であるべき若い人とか子どもが継続的に意見を反映させられるような仕組みの構築に際し、拾えていない人がどこなのかを常に研究、分析をすることと拾えていない人の声をどうやって拾うのかということがセットでないといけない。【鈴木委員】
	●日常の中の災害対策の視点	3-0 3-4	◆首都直下型地震が起こった後に絆といっても、しっぺ返しを食らう可能性が都会には大いにある。地域のための工夫、コミュニティを醸成するような、お祭りであるとか集会であるとか、そういうものをもっとつくるべき。【青柳委員】
			◆災害対策は日常とセットの問題であり、何か災害が特別に独立してあるわけではなくて、災害は日常の延長なので、災害の日常化、または日常の中での災害対策というようなものを示す必要がある。【鈴木委員】

【事務局案に対する意見】
◆もう少し区民の力を引き出すような、住民参加と活動を促す地域づくり、住民主体というようなことをもう少し前面に出した方がよい。また、区民を施策の対象と捉えるのではなくて、自ら地域をつくり支える存在というようなことを位置づけるべき。【中村委員】
◆世田谷区内には大企業もあり、高齢者の日常生活の支援を考えた場合、移動、買物等のニーズもあり、もっと民間企業との協働ということについても考えていくべきではないか、その辺についてももう少し前に出して計画づくりを行うべき。【中村委員】
◆どの分野であったとしても、政策を実現するためには、子どもも含めた参加ということがなければ、新しいまちづくりにはつながらないのではないか。【汐見委員】
◆参加と協働に当たるようなことが、計画の上位概念になければならない。【大杉委員】
◆参加と協働及び生命を守るということを上位の考え方に位置づけて、計画の背骨とすべき。【安藤委員】
◆参加と協働は、手段みたいに聞こえるが、目的たり得ると思う。【小林委員】
◆多様性、ダイバーシティと、インクルーシブ、Well-beingという言葉は、憲法、法律の話からすれば同じ概念であり、言葉の整理が必要である。【鈴木委員】

基本計画大綱に盛り込む内容		キーワード・必要な視点	区の考え方との関連	委員から出された意見
	◆多様な方々の人生が輝き、一番苦しい人に手を差し伸べられる地域社会	●多様性の尊重	2-0 2-4	◆簡単には意見を表明しにくい事情や環境にあり、自分の困っていることを人に知られたくない、また、相談することに不安を抱いている方は多く、ダイバーシティの視点からそのような方々にどのような支援をできるかが大きな課題。【江原委員】
				◆子ども、若者、外国につながる方など、多様な方々の人生が輝くような基本計画をつくることが、世田谷のブランド化につながる。【江原委員】
				◆人権問題や文化の違い、経済上の対立など、社会の様々な対立構造に対し、区の政策としてどう対応していくのか、しっかりと議論していくべき。【森田委員】
				◆介護分野は外国人労働者の方に依存しなければならない実態になってきており、外国人関連施策も必要な視点となる。【中村委員（再掲）】
				◆特に教育の場とか学校の場でこそ多様性の尊重を徹底してほしい。【鈴木委員】
				◆食対応という点も、外国人支援を考える上で必要な視点となってくる。【下川委員】
				◆同じような人が同じようなことを考えていたら、急激に環境が変わったときに対応できないため、多様性を尊重することが重要である。【羽毛田委員（再掲）】
				◆基本方針（目指すべき将来像）の中に、「多様な方々の人生が輝き」という文言があるが、家族の多様性だとか、ライフサイクルの多様性などの観点がちょっと見えない。これが普通のライフスタイル、これがライフサイクルみたいになっていると、劣等感を抱えていたりする人は、まず参加しない。【江原委員】
				◆多様性の尊重といくら言っても、先入観が消えないと何も変えていけない。【佐伯委員】
		●苦しい人へ手を差し伸べられる社会	2-1 2-2 2-4	◆女性支援、特に苦しい状況に置かれている若年女性への支援について、しっかりと考えていくべき。【江原委員】
				◆一番苦しい人に手が差し伸べられる地域社会を実現することが、世田谷のブランドになるのではないか。【中村委員】
				◆災害弱者、災害要配慮者に対する施策を優先することが必要で、福祉避難所の量と質の確保・徹底を目指すべき。【鈴木委員】
				◆女性は、ごく若い段階で、性関係を持つ可能性が出てきた段階で、人生上最も大きなリスクに出会う。ジェンダーによって生活上のリスクが現れる年代が違うことを、日本社会はほとんどわかっていない。若い女性がSOSを出せる場所が今の自治体にはないので、何とかする施策が必要である。【江原委員（再掲）】
		●経済上の格差・貧困問題への対応	1-4 3-0	◆高齢者や障害者などがいかに地域の中で暮らし続けられるか、貧困格差の問題や住まいの問題も踏まえ、サポートしていくシステムが必要になる。【中村委員（再掲）】
				◆人権問題や文化の違い、経済上の対立など、社会の様々な対立構造に対し、区の政策としてどう対応していくのか、しっかりと議論していくべき。【森田委員（再掲）】
		●分野の狭間にある課題・複合的な問題への対応	H 2-0	◆医療・福祉分野では、今後、8050問題やひきこもり、ごみ屋敷の問題など、分野の狭間にある、あるいは複合的な問題に取り組んでいく必要がある。【中村委員】
		●高齢者や障害者などが地域で暮らし続けるための支援	2-2 2-4	◆高齢者や障害者などがいかに地域の中で暮らし続けられるか、貧困格差の問題や住まいの問題も踏まえ、サポートしていくシステムが必要になる。【中村委員】
		●誰一人取り残すことのない支援	2-4	◆世田谷区は、23区でいち早く児童相談所もつくってきたので、制度、組織、年齢による壁を克服して、全ての子どもに健やかな成長を支援し、誰一人取り残すことない支援を実現することを基本方針にできないか。【中村委員】
		●安全・安心に暮らせるまち	1-1 3-4	◆日本全体で、首都圏の直下型地震と南海トラフの可能性が30年以内に70％の確率だと言われており、自治体としてはある程度の対応考えておかなければいけない。【青柳委員（再掲）】

基本計画大綱に盛り込む内容		キーワード・必要な視点	区の考え方との関連	委員から出された意見
基本方針 （目指すべき将来像）	◆子どもの笑顔がより溢れ、生き生きと学べるまち	●子ども・若者への支援の充実	I 4-0 4-1 4-2 4-3 4-4	◆社会の一員としての若者の参加や意見表明、権利侵害への救済、若者の事業展開などに向けた支援が必要ではないか。【森田委員】
				◆子どもへの支援に加え、これから社会に出ていく若者への支援を充実することも必要ではないか。【佐伯委員】
				◆働く女性や子育て世帯などのリアルな声をしっかりと吸い上げていきたい。【下川委員】
				◆世田谷区も人口減少局面、少子化の問題に直面することを意識する必要がある。【中村委員】
				◆最近の若者の特徴は、みんなと一緒に何をするか、あるいは他の人と違わないようにどうするかを先に考えて、その後に自分が来る。つまり、主体性と共同性の順序が逆転している。自分が何をしたいか、それが他の人と一緒にだったらどう展開するかという形で考えてもらえるよう支える必要がある。【森田委員】
				◆女性は、ごく若い段階で、性関係を持つ可能性が出てきた段階で、人生上最も大きなリスクに出会う。ジェンダーによって生活上のリスクが現れる年代が違うことを、日本社会はほとんどわかっていない。若い女性がSOSを出せる場所が今の自治体にはないので、何とかする施策が必要である。【江原委員】
				◆ミレニアル世代、Z世代が成人後働く上で、ビジネスマッチング支援やスタートアップ企業経営に向けた支援に力を入れて今後の日本の活性化を視野に入れた施策にも重点を置いてもよいのではないか。【尾中委員】
		●子どもどまんなか社会	4-1 4-2 4-4	◆子どもが生まれ、育ちやすい社会、子ども真ん中社会とか言われているが、子ども中心ということを基本コンセプトにして、若い世代の人が世田谷区に来て、定着し、住み続けられるということを、もう少し強調して出すべきであり、住みたくなる地域、子ども・子育てによい環境の地域にしていくという政策が必要。【中村委員】
				◆世田谷区は、23区でいち早く児童相談所もつくってきたので、制度、組織、年齢による壁を克服して、全ての子どもに健やかな成長を支援し、誰一人取り残すことない支援を実現することを基本方針にできないか。【中村委員（再掲）】
				◆子ども・若者施策において参加と協働をうたわなければならないし、教育でも参加と協働、まさに自分たち自身が教育のど真ん中にいるんだということを自覚できるような取組みが非常に重要である。【森田委員】
				◆計画に、若者たちの意見をしっかりと反映させることが重要。中・高校生、大学生ぐらいの、ちょうど次の世田谷を担う人たちとの継続的な意見交換の場、あるいは支援の場がないので、しっかりサポートするようなことが今すごく重要なのではないか。【森田委員（再掲）】
				◆とりわけ中・高校生たちは、10年後に中核になっていく人たちなので、この人たちにきちんと世田谷のこれからを一緒に考えてもらうことはすごく大事である。【森田委員（再掲）】
				◆ど真ん中であるべき若い人とか子どもが継続的に意見を反映させられるような仕組みの構築に際し、拾えていない人がどこなのかを常に研究、分析をすることと拾えていない人の声をどうやって拾うのかということがセットでないといけない。【鈴木委員（再掲）】
		●質の高い学校教育	4-5	◆より独自の教育施策が展開できるのではないか。【安藤委員・区民検討会議（再掲）】
				◆画一的な能力の伸ばし方の競争をしてきたこれまでの日本の学校教育を踏まえると、区が「一人ひとりの多様な個性・能力を伸ばす」ことを掲げていることは、画期的なことだと思う。これを本気で進めるために、もう少し具体的な見通しを示す必要がある。【汐見委員】
				◆特に教育の場とか学校の場でこそ多様性の尊重を徹底してほしい。【鈴木委員（再掲）】
				◆世田谷区の子どもたちは私立学校に行く子どもたちがすごく多く、公の学校教育は何をするのか、そして私立の学校とどういうふうにジョイントしていくのかということも、しっかり教育のあり方として考えないといけない。【森田委員】
				◆教育というと、上から教えるものという言葉のイメージがついてしまっており、子どもの探究心を阻害しない、育つ環境を用意するというような考え方に変えていけるとよい。【羽毛田委員】
				◆昔からの教育スタイルが変わっていないことが問題なのではないか。情報や政治などに関する教育を充実すべき。【佐伯委員】
				◆世田谷に来れば、安心して、安く、しかも高いレベルの公教育を受けられるというふうにすれば、世田谷に住もうというふうな意欲を高めることもできるのではないか。【安藤委員】

基本計画大綱に盛り込む内容		キーワード・必要な視点	区の考え方との関連	委員から出された意見
		●新たな学校運営		◆世田谷は新しいタイプの学校、それも子どもたちが本当に生き生きと学んでいる、そういう学校を、例えばモデル校でもいいのでつくり上げようとし始めたというような計画を示してほしい。【汐見委員（再掲）】
				◆学校教育を変える1つのキーワードが「参加」だと思っている。地域の社会的な課題を学校を通じて子どもたちがどう解決したらいいのか考える。こうしたことをあらゆるレベルでやっていくことが必要ではないか。課題解決への参加型学校というような形に学校のイメージを変えていかないと、新しい提案というものにはつながらない。【汐見委員】
				◆参加と協働を学校生活の中で体験として身につけていくことがすごく大事である。【安藤委員】
				◆インクルーシブや福祉、防災などは教育の重要なテーマであり、なぜそれをやらなければいけないのか、そうすることでみんながなぜ幸せになれるのかということを、何か体験も通して子ども・若者にわかってもらうようにすべき。【羽毛田委員】
		●生涯を通した学び	4−0 4−6	◆子ども・若者の支援と教育の充実をなぜ重ねるのか。リカレント教育とか、中高年の教育とか、学び直しとかができないと、これから生きていけない。何度でも学べるみたいな社会をつくっていかなければいけない。【江原委員】
	◆人と人とのつながりを大切にし、誰もが地域で活躍でき、心の豊かさの向上につながるまち	●地域課題の解決の担い手の創出・地域人材の育成	D 3−0 5−3	◆計画の実効性を確保するには、人材育成の視点が重要だ。【大杉委員】
				◆区政を取り巻く多様で複合的な課題の解決に取り組むことができる担い手の創出、人材の育成が次期基本計画のポイントである。多様な住民が主体となった生活をベースとする起業や創業は区内で多く見受けられ、起業活動を一層促すことが重要である。【長山委員】
				◆区内でリーダーシップを発揮して活動している方々の活力は貴重であり、こうした方々が情報共有し、円滑に活動できる仕組みづくりが必要である。【羽毛田委員】
				◆未来に向けて人を育てるとか、何かそういう取組みをぜひ柱に据えられたらと思う。【羽毛田委員】
		●ウェルビーイングな社会・心が豊かになる社会	3−0 3−4 5−2	◆グリーンインフラの取組みなど、自然のストックを活用していくことで、まちが成熟して人々の心が豊かになっていく。幸福感をどう見出すかが重要であり、ウェルビーイングの視点から、世田谷のまちを、金銭的に豊かにならなくても心が居心地がよくて住みやすい、みんなが助け合えるといった姿に変えていくことが必要ではないか。【涌井委員】
				◆心が豊かになれるような社会をつくるには、公共が非常に重要な働きをする。【安藤委員】
				◆地域課題の解決の担い手となる地域人材の育成には、起業家的人材、アントレプレナーシップが重要であり、起業というのは自己実現を動機にする人がいて、それは結果的にウェルビーイングにつながる。【長山委員】
				◆中小企業の人手不足の解決に向け、ワークシェアのような形で、1人が幾つものマルチでタスクをするような時代に向かいつつある。幾つもの仕事をし、幾つもの役割を担っていくことで、地域に活躍の場が増えるようになると、ウェルビーイングにつながっていくのではないか。【長山委員】
		●分野横断的なまちづくり	H 3−0 3−1 3−2	◆地域づくり、まちづくりが、健康や幸福の状態に関係するという、ソーシャルキャピタルの議論があり、各領域や各分野の政策の前にまちづくりが必要だということを基本の考え方にすべき。また、少なくとも健康・福祉領域の中心は28地区であり、地域密着を基本として、日常生活圏域から施策を組み立てあげていくという視点が必要。【中村委員】
		●地域が人を育てる力	3−0	◆地域が人を育てる力が完全に落ちている。そこに住みたいという人たちを増やすためには、一人ひとりに地域に住むことよる安全保障の担保をあげるということが、非常に重要である。世田谷に住んでいればどうにかなるんだという可能性の保障というものが、住民にとっては一番ありがたいことである。【青柳委員】
		●高齢者が社会に参加、活動しやすい地域づくり	2−0 3−2	◆8割の高齢者は元気なので、高齢者が社会に参加、活動しやすい地域づくりを目指していただきたい。【中村委員】
		●コミュニティの醸成	3−0 3−1 3−4	◆首都直下型地震が起こった後に絆といっても、しっぺ返しを食らう可能性が都会には大いにある。地域のための工夫、コミュニティを醸成するような、お祭りであるとか集会であるとか、そういうものをもっとつくるべき。【青柳委員（再掲）】
				◆人々が支え合うためには、何かイベント、小さな地域の祭りというものが時々あることが大事ではないか。地域ごとの住民のお祭りなどを企画してほしい。【汐見委員】
				◆世田谷モデルというのは、参加と協働のシステムをどううまく組み立てられるのかにかかっているのではないか。同時に、その参加と協働というのは、よりよいコミュニティの醸成ともイコールだと思う。【涌井委員】
				◆それぞれの地区の社会的または自然的な特性をきちんと踏まえた上で、地区独自のコミュニティをどう醸成していくのかということを盛り込むべき。【涌井委員（再掲）】
				◆イベントが地域コミュニティをつくっている。イベントを契機に、街を歩いていて挨拶する機会が増えるなど、本当に影響がある。【下川委員】
				◆地域の祭りなどに友達と行ったりすることで、友達との仲が深まるだけではなく、地域の方と関われてすごく心が温まる。【佐伯委員】

基本計画大綱に盛り込む内容		キーワード・必要な視点	区の考え方との関連	委員から出された意見
	◆世田谷が持つ資源を効果的、効率的に活用し、自然環境と調和した持続可能な社会	●次世代への資源の継承		◆次の世代を担う若者がやりたいことを実現するための資源を残すこと、可能性のプラットフォームをつくることがサステナブルな社会の実現につながり重要。【青柳委員】
		●自然との共生	5-0	◆持続可能な循環型社会という考え方は、まだ狭い。これからの10年を考えると、自然との共生みたいな、自然の一部になることを考えるべきではないか。世田谷区だけでなれるわけはないので、他の自治体や海外、あるいは海外の環境を含め共生可能な方策を考える必要がある。【小林委員】
	◆柔軟かつ大胆な発想でさらなる魅力の創出につながる新たな取組みを積極的に提案し、全国をリードする区政運営	●他自治体をリードする取組み・世田谷モデル	4-3	◆空きが生じ始める保育園を多機能化し、地域のみんなが集まれる場所に発展させるなど、他自治体よりも10年、20年先を読みながら、いろいろな取組みを新しく提案できる自治体を目指すべき。【汐見委員】
				◆世田谷のモデルがつくられ具体化されていくと、全国のモデルになってくる。【鈴木委員】
				◆より独自の教育施策が展開できるのではないか。【安藤委員・区民検討会議】
				◆世田谷は新しいタイプの学校、それも子どもたちが本当に生き生きと学んでいる、そういう学校を、例えばモデル校でもいいのでつくり上げようとし始めたというような計画を示してほしい。【汐見委員】
				◆今、兼業、副業的な人材が非常に求められており、区は兼業、副業を解禁するなど、多様な働き方の実験的な機会をどんどんつくり、世田谷モデルとして押し出せないか。【長山委員】
				◆世田谷ならではの産業振興の意義だったり、テーマだったり、アドバンテージというものをより明確に研ぎ澄ましていくことで、共感できる人材が集まってくるというような、いい循環が生み出せるとよい。【羽毛田委員】
		●多様な働き方の実現	5-3	◆地域課題の解決の担い手となる地域人材の育成には、起業家的人材、アントレプレナーシップが重要であり、起業というのは自己実現を動機にする人がいて、それは結果的にウェルビーイングにつながる。【長山委員（再掲）】
				◆今、兼業、副業的な人材が非常に求められており、区は兼業、副業を解禁するなど、多様な働き方の実験的な機会をどんどんつくり、世田谷モデルとして押し出せないか。【長山委員（再掲）】
				◆世田谷は事業を興せる場所としてもかなり魅力的になってきている。【長山委員】
				◆中小企業の人手不足の解決に向け、ワークシェアのような形で、1人が幾つものマルチでタスクをするような時代に向かいつつある。幾つもの仕事をし、幾つもの役割を担っていくことで、地域に活躍の場が増えるようになると、ウェルビーイングにつながっていくのではないか。【長山委員（再掲）】
				◆ミレニアル世代、Z世代が成人後働く上で、ビジネスマッチング支援やスタートアップ企業経営に向けた支援に力を入れて今後の日本の活性化を視野に入れた施策にも重点を置いてもよいのではないか。【尾中委員（再掲）】
		●楽しめる場所	3-3 6-2	◆ランドマークを建てるなど、世田谷をもっと楽しめるような場所にしていけないか。【安藤委員・区民検討会議】
		●移動の円滑化		◆世田谷は広いが、意外と分断されていて、縦に移動するのは非常に難しい。【安藤委員・区民検討会議】

【事務局案に対する意見】
◆基本方針（目指すべき将来像）の中に、「多様な方々の人生が輝き」という文言があるが、家族の多様性だとか、ライフサイクルの多様性などの観点がちょっと見えない。これが普通のライフスタイル、これがライフサイクルみたいになっていると、劣等感を抱えていたりする人は、まず参加しない。【江原委員（再掲）】

基本計画大綱に盛り込む内容		キーワード・必要な視点	区の考え方との関連	委員から出された意見
将来像の実現に向け分野横断的に重点的に取り組むべき課題	■子ども・若者への支援と教育の充実	●若者の参加や意見表明		
		●権利侵害への救済		
		●若年女性への支援		
		●新たな学校教育		
		●一人ひとりの多様な個性・能力を伸ばす		
	■誰もが安心して住み続けられる社会	●多様性の尊重		
		●外国人への支援		
		●人権問題への対応		
		●貧困問題への対応		
		●分野の狭間にある課題・複合的な問題への対応		
		●地域で暮らし続けるための支援		
	■地域力の向上とウェルビーイング（※）なまちづくり	●ウェルビーイングな社会		
		●分野横断的なまちづくり		
		●地域力の向上		
		●地域課題解決の担い手の創出・人材の育成		
	■環境と調和した持続可能な社会	●自然ストックの有効活用		
		●次世代への資源の継承		
		●自然との共生		
	■新たな魅力の創出と世田谷ブランドの向上	●新たな魅力の創出		
		●移動の円滑化		
		●他自治体をリードする取組み・世田谷モデル		
		●起業支援		
		●多様な働き方の実現		

【事務局案に対する意見】
◆子ども・若者への支援と教育の充実というのは、似ているようで違うのではないかと思う。明確に2つに分けて、それぞれ内容を議論すべき。【安藤委員】
◆子ども・若者の支援と教育の充実をなぜ重ねるのか。リカレント教育とか、中高年の教育とか、学び直しとかができないと、これから生きていけない。何度でも学べるみたいな社会をつくっていかなければいけない。【江原委員（再掲）】
◆災害対策は日常とセットの問題であり、何か災害が特別に独立してあるわけではなくて、災害は日常の延長なので、災害の日常化、または日常の中での災害対策というようなものを示す必要がある。【鈴木委員（再掲）】

基本計画大綱に盛り込む内容		キーワード・必要な視点	区の考え方との関連	委員から出された意見
分野別政策の考え方・政策の柱立て				
計画推進にあたって 重視すべき考え方など		●DX	A 6-0 6-1	◆DXをどう使っていくのかが、次の基本計画の課題ではないか。【中村委員】
				◆DXの力を活用した革新的な取り組みを行ってほしい。【安藤委員・区民検討会議】
				◆ブランディングが進んでいる世田谷区において、今後必要となるのがDXの部分ではないか。【尾中委員】
				◆多様な区民の意見や提案が区政に反映されるような仕掛け、あるいは、いろいろな情報を共有できるといったところをDXの本当の主眼にすべき。【安藤委員】
				◆DXを進めた時に、必ず使えない人が出てくるため、誰一人取り残さず、使えない人を絶対に生まないように、弱者フォローの徹底がセットである。【鈴木委員】
		●情報発信	B	◆プッシュ型の情報発信をどんどん行ってほしい。【安藤委員・区民検討会議】
				◆全国に世田谷の取組みを一層アピールしていく必要がある。【安藤委員・区民検討会議】
				◆プル型の発信にも力を入れていくべき。【尾中委員・区民検討会議】
				◆世田谷区では、子どもや若者たちが、ほかの自治体に先駆けて新しい情報発信の取組みを行っており、こうした取組みも活用して新しいまちをつくっていくべき。【森田委員】
				◆小さな課題と思われることも、実は世界全体で悩んでいる課題になり得る。悩みをきちんと発信することが、世田谷、日本、世界の課題を解決するきっかけになるかもしれないということを、意見を言えない人たちにも届けられたらいいと思う。【羽毛田委員】
				◆区民とコミュニケーションを図る上での共通プラットフォームの検討をすべき。また、それと同軸で発信の仕方の工夫も必要。【尾中委員】
				◆地域独自で考えたうまい工夫や企画を他地域にもどんどん広げ、普及すべき。【羽毛田委員】
		●参加と協働	A、B、D、E、 3-1	◆参加と協働については、受け止める側となる事業者・職能団体にも理解を得た上で、力を入れていく必要があるのではないか。【中村委員】
				◆幅広い世代からの声を取り入れたり、様々な視点から区の現状を見直すことで、さらなる課題解決につなげることができるのではないか。【佐伯委員】
				◆これからの社会は、公共対私ではなく公私の間に共があり、公共の二文字からどれだけ共を剥がしていき、そこに区民が参加していくのかがすごく重要である。共の再構築をするためには、行政が今までのように一方通行ではなくて、交流・対流する現象をどう巻き起こしていくのか。そのためには、コンシェルジュやコーディネーター、オーガナイザーといった役割を余剰時間からつくり出していくという発想は非常に意味がある。【涌井委員】
				◆区の役割と、住民の参加することの線引き、区は何をするのかというのを明確にすべき。【小林委員】
				◆区民間の様々な活動の間での協力関係、これをサポートするような部分での行政の役割も非常に重要になってくる。【大杉委員】
				◆産学官連携の取組みに若いうちから関わることは、区政やまちづくりをポジティブに考えていくきっかけになるのではないか。【下川委員】
				◆あらゆる階層の区民の方が政策の埋まっていないところを埋めていく作業に取り組んでいける仕組みをつくれば、区民の方たちの生きがいなどにつながるし、政策そのものも区民に近づく。全部を行政でかっちり決めるのではなく、あえて区民に残してそこを区民に埋めてもらうといった考え方は重要である。【安藤委員】
				◆区民とコミュニケーションを図る上での共通プラットフォームの検討をすべき。また、それと同軸で発信の仕方の工夫も必要。【尾中委員（再掲）】
				◆もう少し区民の力を引き出すような、住民参加と活動を促す地域づくり、住民主体というようなことをもう少し前面に出した方がよい。また、区民を施策の対象と捉えるのではなくて、自ら地域をつくり支える存在というようなことを位置づけるべき。【中村委員（再掲）】
				◆世田谷区内には大企業もあり、高齢者の日常生活の支援を考えた場合、移動、買物等のニーズもあり、もっと民間企業との協働ということについても考えていくべきではないか、その辺についてももう少し前に出して計画づくりを行うべき。【中村委員（再掲）】

基本計画大綱に盛り込む内容	キーワード・必要な視点	区の考え方との関連	委員から出された意見
			◆事業者、職能団体が果たす役割が大きいため、それらの方々の責任や果たすべき役割、あるいは期待されることを記述してはどうか。【中村委員】
			◆どの分野であったとしても、政策を実現するためには、子どもも含めた参加ということがなければ、新しいまちづくりにはつながらないのではないか。【汐見委員（再掲）】
			◆社会福祉法人は、地域のニーズ・困りごとを調査し、その解決を法人で提案し取り組むといったことが必要であり、株式会社も含め、福祉行政も参加型でやっていく、といったことも大胆に提案していくべき。【汐見委員】
			◆世田谷モデルというのは、参加と協働のシステムをどううまく組み立てられるのかにかかっているのではないか。同時に、その参加と協働というのは、よりよいコミュニティの醸成ともイコールだと思う。【涌井委員（再掲）】
			◆参加と協働は、手段みたいに聞こえるが、目的たり得ると思う。【小林委員（再掲）】
			◆学生に向けて、食育という観点から、環境や多様性、Well-being、SDGsに触れる機会の創出を行えないか。環境問題に対して食というのは身近で、若い方たちも巻き込みやすい。【下川委員】
	●人材育成	G	◆計画の実効性を確保するには、人材育成の視点が重要だ。【大杉委員（再掲）】
			◆世田谷区役所は大きな組織であるため、基本計画の実効性を確保するためには、現場の職員まで内容を周知徹底し、組織一体となって計画を推進する必要がある。【鈴木委員】
	●SDGs	H 5-4	◆SDGsなどの複眼的な目標に照らし、縦割りの政策を全部チェックすることなども必要になってくるのではないか。【小林委員】
			◆SDGsの誰一人取り残さないという視点を分野横断的に徹底する必要がある。【小林委員（再掲）】
	●働き方改革	6-1	◆大人にとっても子どもにとっても大事な働き方改革を進めるべき。【森田委員】
			◆今、兼業、副業的な人材が非常に求められており、区は兼業、副業を解禁するなど、多様な働き方の実験的な機会をどんどんつくり、世田谷モデルとして押し出せないか。【長山委員（再掲）】

※ウェルビーイング：個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。